

商店街名：内田橋商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

人と人を繋ぐ架け橋になる商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

少子高齢化の進展や若者の流出による人口減少は続くが商店街の空き店舗はほぼ埋まり商店街から地域へ新たな賑わいを創出しつつあるが、堀川・新堀川護岸の劣化に伴う、防災の危険性、都市景観の悪化など、私たちはまちの将来に変わらず大変な危機感を有している。



◇商店街の姿

商店街の空き店舗はほぼ埋まり、6年前よりはじめている活性化イベントを通じて、認知度は確実に高まり、全国より来街者が増加のため、受け入れの体制と商店街エリアを超えた地域まちづくりが求められている。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

地域全体の人口減少に歯止めはかかっていないが、ここ数年若者が集まり活気を取り戻しつつある内田橋商店街、まきわら神輿の奉納に取り組む若者で構成するまきわら会、支えあいのまちづくりに取り組む明治学区連絡協議会、近隣の有力企業の皆さんの街の復興への熱い思いが高まりつつある。堀川や新堀川といった水辺空間を生かしたまちづくり、活気ある商店街の復活、多彩な祭りへの取組み、堀川といった歴史資産・水辺空間を活かしたまちづくり、近隣の熱田神宮、七里の渡しと連携した回遊性の高いまちづくりを進めるなかで、本市の都市マスタープランにある都市魅力、個性的な魅力空間を明治・内田橋まちづくり協議会を通じて行政に提言を続けている。



◇商店街の姿

年4回以上の多彩なイベントや商店街装飾や美化も進み、次世代の出店者や挑戦者を受け入れ、普段より来街者で賑わう商店街全体での連携をより強固なものとして再開発に向けての気運の醸成を確実に行う。商店街地主、まちづくり協議会との協議や年に4回以上の大きなイベントや出店受け入れの継続、あつた観光連盟との連携により、熱田からのウォークラブルな商店街づくりを加速させていく。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

明治・内田橋堀川まちづくり構想ビジョンマップをもとに、委員会活動を実施する事で堀川水上マーケットの合法化と内田橋商店街との連携を構築、熱田神宮からの観光客の取り込みと地域住民へワンストップショッピングで楽しめる商店街づくりを目指す。そして行政へビジョンマップを提出し実現可能な活動と持続可能な活動を続けていく。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計8名

(2) 地域プラットフォーム

名称：明治・内田橋堀川まちづくり協議会

目的：内田橋商店街における都市魅力・個性的な魅力空間の創出、実現により、賑わいと交流のまちづくりを進め、内田橋ににぎわいと活気を取り戻したいといった市民の期待を高めていきたい。

参画：商店主、地域住民、学校、その他

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

商店街イベントでのヒヤリングやアンケートから、ワンストップで完結する商店街店舗と飲食店舗の充実と高齢者から子供、外国人や観光客まで安心、安全に交流できるまちづくりが期待されている。さらに、堀川の水辺空間の創出と商店街を基点にしたまちづくりへの関心が高いことが分かった未来プロジェクトでは、これらの課題を商店街だけでなく地域の課題として検討する必要がある。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

商店街、明治学区、明治小学校、熱田法人会、行政、専門家等が連携して、内田橋まつりの日に商店街を使って未来に向けた発表の場とする。